

(研究課題)

乳房 MRI における病変の病理組織型の可能性を解析するコンピュータ支援診断 (CADx:Computer-aided Diagnosis)システムの構築

(1)研究の目的

乳がん検診において、触診・マンモグラフィ・エコー・触診・MRI など様々な検査が行われています。海外では乳房 MRI の有用性は幅広く認識されていますが、日本での認知度はこれまで低いものでした。しかし近年、日本の乳がんに関するガイドライン(乳癌診療ガイドライン, 乳癌学会編)で、乳房 MRI の有用性が認識されてきました。

陽性予測度を向上させるため、マンモグラフィ検診ではマンモグラム上の病変の悪性の可能性をコンピュータで解析し、医師に提示するコンピュータ鑑別支援システム(CADx)が構築されているが、乳房 MRI では未だ有用な CADx システムは開発されていない。そこで本研究では、乳房 MRI における病変の病理組織型の可能性を解析する CADx (コンピュータ支援診断)システムの構築を目的とする。

(2)研究方法

本研究では症例対象の研究であり過去の診療記録より実験試料を収集し、病変の画像特徴の定量化(数値化)を実施する。そして、各病理組織型間において、画像特徴量の違いを明らかにし、その違いに基づいて病理組織型の可能性を統計的に推定する CADx システムを構築する。

(3)予測される結果(利益・不利益)

乳房病変に対し今後の診断等の向上に役立つことが期待されます。また、本研究では、症例対象とする研究であり、患者さんの情報も匿名化して取り扱うため、不利益を生じることはないと考えます。

(4)プライバシーの保護

この研究にあたっては患者さま個人を直接同定できるような情報は一切取扱いません。また研究成果は関連学会および学術論文として公表される予定ですが、匿名化を行い個人情報情報は厳重に保護されています。

本研究へのご理解とご協力をお願いいたします。

医療技術部 撮影第1課
診療放射線技師 本多絵美